

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 千葉県 】

1 実践テーマ	【 I III V 】
2 実施対象者	学校名 館山市立豊房小学校 対象学年 全校 人数 80人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 総合 体育 ) ② 行事名 ( マラソン大会 ) ③ その他 ( ) (2) 地域における活動 ① イベント名 ( ) ② その他 ( )
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーやユニバーサルデザイン等を通して、生活様式の多様な在り方を考えられるようにするとともに、障害者スポーツを通して、相互に支え合い、認め合える心を育てる。</li> <li>・オリンピック、パラリンピックへの理解を深め、スポーツを通しての人間教育（フェアプレイ・公正・努力の大切さ）を進める。</li> </ul>
5 取組内容	<p><b>【金メダリストによる講話】</b></p> <p>モントリオールオリンピック女子バレーの金メダリストで、2020年東京オリンピック・パラリンピック館山市推進本部長の田村悦智子氏による講話。事前学習として、4年生がオリンピックの歴史や競技について調べ、他学年に発表したもので、興味関心を持って講演会に臨むことができた。児童一人一人が本物の金メダルを手にとって、その重さを確かめた。子どもの頃は、体が弱く運動ができなかったこと。それを克服し、努力することで夢を叶えたというエピソードも、多くの児童の心に残った。</p> <p><b>【ボッチャ体験】</b></p> <p>ボッチャの指導員を迎えての体験型の授業。異学年のグループのチームを作り、協力しながらゲームを楽しむことができた。車椅子や、ランプと呼ばれる補助器具、ゴールボールなどの紹介もあり、障害者スポーツへの理解が深まった。またボッチャは、障害者だけのスポーツではなく、健常者でも、また年齢も関係なく楽しめるスポーツであることを身をもって体験することができた。</p>





**【現役オリンピックによる講話・マラソン大会】**

トライアスロンの上田藍選手の講話と、校内マラソン大会。事前に上田選手や競技についての調べ学習をして当日を迎えた。館山市のふるさと大使でもあり、現役のトライアスリートとして世界を転戦している上田選手の講話の中でも、目標に向かって努力すること、あきらめないことの大切さが、マラソン練習に取り組む児童の心に響いた。講演会に続いて、校内のマラソン大会では、低中高それぞれのレースで児童と一緒に走ってくださった。オリンピックに3大会連続で出場している選手とともに走った経験は、忘れられないものとなった。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビのニュースや新聞記事等を、教室でも紹介し合うなど、児童のオリンピック、パラリンピックへの関心が高まった。</li> <li>・障害者スポーツを理解することで、障害者や福祉について考える学習につながった。</li> </ul> <p>テレビ取材： NHK ニュース645 【ボッチャ体験】          新聞掲載：房日新聞 H29. 10. 12 【オリンピック事前学習】          千葉日報 H29. 10. 31 【ボッチャ体験】          房日新聞 H29. 11. 26 【オリンピックによる講話】</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p><b>【金メダリストによる講話】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習から、当日の運営までをできるだけ児童の手で行うようにしたこと。</li> </ul> <p><b>【ボッチャ体験】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座学ではなく、異年齢集団で競技を行ったことで、どの学年でも競技を楽しめるようにしたこと。</li> </ul> <p><b>【現役オリンピックによる講話・マラソン大会】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マラソン大会は、保護者が多数来校するので、学校としてのオリパラ教育への取り組みを理解してもらう機会としたこと。</li> </ul>
<p>8 主な課題等</p>	<p>児童にとっては、オリンピック、パラリンピックについての予備知識が全くなかったため、興味関心を持たせて行事に臨ませるために、1つ1つの行事で事前学習の時間をしっかりと取ったため、予定していた授業時数を超えてしまった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>ボッチャボールを購入し、今後継続的な取り組みを行う予定。 ボランティア体験を柱としたおもてなしの心の育成を図る予定。</p>

